

オープン市場短信 (2018年7月)

2018.7.12

◆ 6月のCP市場動向

6月末のCP市場残高は、一般事業法人（電力・ガス、商社）やその他金融の発行増が寄与し、16兆2,262億円（前年同月比+1兆1,460億円）の増加となった。前月対比で見ると、業態別の残高では、一般事業法人は四半期決算の残高調整により、4兆7,599億円（△1兆6,379億円）と大幅に減少したが、その他金融は8兆4,157億円（+1,445億円）、金融機関は1兆6,530億円（+2,354億円）、ABC Pは1兆3,976億円（+2,315億円）とそれぞれ増加した。発行レートは、投資家のニーズが強くマイナス圏での出合いが中心となった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）△0.013%～0.000%近辺 一般事業法人（a-1格）△0.015%～0.000%近辺 その他金融銘柄（a-1格）△0.0001%～0.003%近辺

【業態別残高内訳】

(単位：億円)

業 態	6月末残高	5月末残高	増 減
一般事業法人	47,599	63,978	-16,379
その他金融	84,157	82,712	1,445
金融機関	16,530	14,176	2,354
政府系金融	0	0	0
銀行等	3,685	3,490	195
証券	12,845	10,686	2,159
ABC P	13,976	11,661	2,315
計	162,262	172,527	-10,265

(注：買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

(単位：%)

6月のCPレートレンジ

格 付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+ (一般事業法人)	△ ～ ——	△ ～ ——	△ ～ ——
a-1 (一般事業法人)	△ ～ 0.0120%	△ ～ 0.0000%	△ ～ 0.0000%
a-1+ (リース銘柄)	—— ～ ——	△ ～ ——	△ ～ ——
a-1 (リース銘柄)	△ ～ 0.0000%	△ ～ 0.0020%	△ ～ 0.0033%
a-2	△ ～ ケ0.10%	△ ～ ケ0.10%	△ ～ ケ0.10%

«CPオペ»

CP等買入オペのオファー額は、月間で合計7,500億円（前月比+1,500億円）と増額となった。5日のオペの按分レートは、 $\Delta 0.005\%$ と前回の $\Delta 0.004\%$ から低下した。12日のオペの按分レートは、 $\Delta 0.007\%$ と低下。月末スタートの26日のオペは、応札額は減少したが、按分レートは $\Delta 0.005\%$ と前回比+0.002%上昇した。これは、ディーラーの売却希望の強いリース銘柄の応札が中心となったためと思われる。

〈月末オペ残高：2兆892億円〉

【日銀CP等買入れオペ実績】

(単位：億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
6月5日	6月8日	2,500	6,972	2,487	-0.005%	-0.003%	34.1%
6月12日	6月15日	2,500	6,233	2,485	-0.007%	-0.002%	27.0%
6月26日	6月29日	2,500	5,740	2,465	-0.005%	-0.002%	28.7%

«ABC P»

ABC Pは、1兆3,976億円（前月比+2,315億円、前年同月比 $\Delta 1,188$ 億円）であった

«短期社債登録状況»

証券保管振替機構によると、6月末時点における発行登録企業数はカブドットコム証券、Volvo Treasury AB (publ)、オリンパスの3社が新規登録し、522社となった。

«CP現先市場»

現先(S/N)レートは運用ニーズ強く、マイナス~0%近辺での出会いで0%では引き続き買い残り状態となっていた。

◆ 7月のCP市場動向

7月のCP発行市場は、四半期決算で有利子負債の削減を行った企業の発行再開により、月初から大型発行案件が相次ぎ、日次の発行残高が17兆円台で推移している。今月は、償還額（約2兆1,800億円）を大幅に上回る発行が見込まれ、月末発行残高は、18兆円前後（前年同月：16兆6,271億円）を予想する。発行レートは、a-1格の一般銘柄でマイナス～0%近辺、その他金融・リース銘柄で0%～0.02%台での出合いを予想。

«CPオペ»

5日のオペでは、6月26日のオペ（2,500億円）から500億円減額されたことと期初の発行増が影響し、按分レートが $\Delta 0.003\%$ 、平均レートが 0.000% と上昇した（前回結果：按分レート $\Delta 0.005\%$ 、平均レート $\Delta 0.002\%$ ）。12日、26日のオフア－額も各々2,000億円と予定され、ほぼ横ばい水準での動きと見る。

«CP現先市場»

CP現先レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出合いであろう。

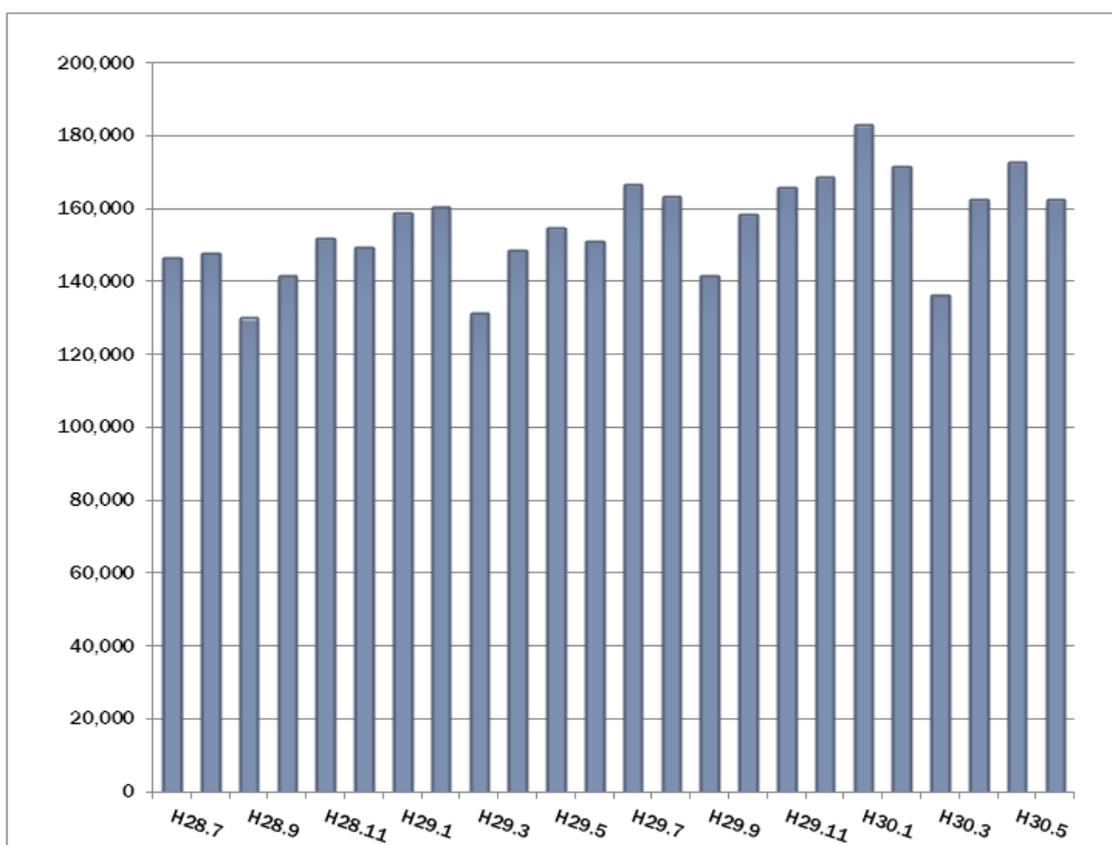
【6月末発行残高 上位10社】

(単位：億円)

	発行企業名	6月末残高	5月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	10,709	10,399
2	三菱UFJリース	7,634	7,407
3	東京センチュリー	6,301	6,304
4	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	5,691	4,704
5	興銀リース	5,378	5,133
6	クレディセゾン	4,380	5,035
7	NTTファイナンス	4,180	2,340
8	ジャックス	3,930	3,950
9	JA三井リース	3,930	4,060
10	芙蓉総合リース	3,822	3,672

【短期社債月末残高】(H28年7月～H30年6月)

(単位：億円)



本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒 541-0043 大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会